

2023年12月21日

道内陸上競技 関係者 様
同 公認審判員 様
同 競技者 様

一般財団法人 北海道陸上競技協会
会長 丸 昇

報告と謝罪について

日頃より当協会の運営に関しご理解とご協力を頂いておりますことに心より感謝を申し上げます。さて、当協会の運営において重大な問題が発生したことに関し、ご報告とお詫びを申し上げます。

既に新聞等で報道されていますが、当協会が審判員や競技者からお預かりし、本来であれば公益財団法人・日本陸上競技連盟（以下、日本陸連）に支払うべき2022年度分の登録料735万円余を滞納していることが発覚しました。

また、未納金納付の資金確保のため、財務状況を確認していたところ、本来はあるべき基本財産の預貯金残高がなくなっていたことと共に、当協会の会計書類の改ざんが数年間続いていたことも判明しました。

当協会の杜撰な会計処理により、上記登録料の滞納が今なお続いており、競技者をはじめ陸上関係者の皆様には、多大なるご迷惑とご心配をおかけしていることに対しまして、心より謝罪を申し上げます。事務局・執行部といたしましては、重ねての役員会、理事会、評議員会を行って、迅速な事態の收拾、解決、報告に鋭意努めてまいりましたが、競技会をはじめ年間予定事業の推進を優先しながら本件の課題、問題の解決に取り組まざるを得ない状況が続いたことから、関係者の皆様への報告と謝罪が、既に道内での各種陸上競技大会がほぼ終了したこの時期になり大変遅くなりましたことにつきましても改めて心からお詫び申し上げます。誠に申し訳ございませんでした。

2022年度は、監査・理事会で改ざん決算に気づくことなく、従来 of 事業をそのまま継続し、結果として運営資金が不足している中、コロナ感染症対策を講じた上での大会運営などで例年以上に経費を費やしてしまいました。またインターハイ・国体関連の支出など一時的に多大な出費が重なった等の事情から、各種事業費等の捻出が難しくなり、日本陸連に納めるべき登録料を本来の目的とは異なる用途に使用してしまいました。現在、問題の発生原因及び本協会が財政難に陥った根本原因の精査を進めているところでありますが、恒常的な赤字経営、自転車操業的な財政運営等もあり、解明が難航しております。

過去の調査について当協会は、11月30日及び12月2日に理事会を開催し、外部の識者による第三者委員会の設置を決議し、徹底的な原因究明と調査を行うこととしました。一刻も早く登録料未納分を納付できるよう努めると共に、財務処理規則を遵守した道陸協の

運営に務めこのようなことが二度と起こらないよう全力で組織改革、財政再建を進めて参ります。また財政再建につきましても、徹底した経費節減に取り組むと同時に各種事業の見直しなどを行い、収支改善の具体策を次年度の予算案に反映させ、当協会の運営資金を確保して参ります。なお、過日の一部報道では、来季の中高生の参加料値上げに言及する報道がございましたが、中学生はもとより高校生において、今季既に値上げして実施した大会での新たな値上げは行わない方針です。

最後になりましたが、2022年度における競技成績や記録、審判活動の実績の扱いにつきまして、日本陸連から以下の判断をいただいております。

「登録会員（競技者や審判員）の皆様は2022年度の日本陸連登録料を適切にお納めくださり、2022年度の日本陸連の会員登録も完了しています。北海道陸協から日本陸連に登録料が納付されていないことについて、皆様に責任はありません。よって、皆様の2022年度の公認競技会における競技成績や記録、審判活動の実績は、すべて有効であり、抹消することはありません。

なお、2023年度は日本陸連の登録システムが新しくなり、登録会員の皆様登録料を納めると、日本陸連、北海道陸協、地方陸協、高体連、中体連などの登録先にそれぞれ所定の額が自動的に振り込まれる仕組みとなりました。そのため、2023年度の登録料は日本陸連に届いております」。

過去の杜撰な会計処理に端を発し、今季の当協会が財政難に陥った影響で、昨年度の日本陸連への登録料支払いの目途も未だつかず、今年度の残された事業につきましても大幅に見直さざるを得ず、冬場の合宿等にも甚大な影響を及ぼしてしまいました。当協会のこの度の不始末を猛省すると共に、関係者の皆様には重ねて深くお詫び申し上げます。誠に申し訳ございませんでした。